

## 「世界都市サミット」、官民連携は都市問題解決の鍵

### 革新的な都市ソリューション開発のプラットフォームとして

世界では都市化がかつてないスピードで進んでいます。世界人口の半数以上は都市部に集中し、都市人口は2050年までに64億人を上回ると推測されています。中でも、中国、インド、東南アジアなどアジア新興国による増加がこの1/3以上を占めるといわれています。都市人口の増加は生産性を高め大きな変化をもたらすと期待される一方で、様々な歪みや問題を生み出しているのも事実です。

都市問題に早くから力をいれているシンガポールでは、世界各国のリーダーが都市問題に関するアイデアを交換し、アジア・太平洋地域が直面する諸問題の解決策を見出すことができるようなプラットフォームを提供したいと考え、2008年に「世界都市サミット」を立ち上げました。今年6月28日に開催された第2回サミットは「未来のための暮らしやすく持続可能な都市(Livable and Sustainable Cities for the Future)」をテーマに、各国の担当大臣をはじめ、自治体の首長や政策担当者が1,000人以上参加し、住宅、水、技術開発や持続可能性などについて議論し

ました。EDBのレオ・イップ(Leo Yip)長官は「世界都市サミット」を重要な情報交換・ソリューション開発のプラットフォームと位置づけ、「世界の都市が互いに学び、生活を向上し持続可能な都市環境を作り出す」場であると説明します。

### 環境型事業の成長

シンガポールは、水処理やクリーンエネルギー開発の分野で官民が協力し、持続可能かつ革新的なソリューションを提供し新しいビジネス機会を創出してきた実績があります。数多くの官民連携プロジェクトのなかでも、地元水処理会社ハイフラックス(Hyflux)はシンガポール公益事業庁(PUB)と協力しコスト効率の高い水処理ソリューションを提供、その実績から中国や中東など海外の水処理事業の受注を獲得するようになりました。

米自動車部品メーカーのデルファイ・コーポレーション(Delphi Corporation)もシンガポールの高度な技術インフラを活用し、環境車の開発を行っています。シンガポールには総合的な研究開発(R & D)施設があることから、進出企業はすぐにR & D活動に取り組めるという利点があります。イップ長官は、「シンガポールは官民提携で他に類のない機会を提供している。企業、政府、研究機関を集め、ソリューションの実験や技術開発のほか、大規模なシステム開発を支援している」と述べています。

### 未来に向けた取り組み

サミットのパビリオンにはEDBも出展し、ジュロン・タウン公社(JTC)と共催で、将来的に利用が可能となる技術の展示を行いました。都市が直面している10の問題について、見学者が自らの考えや解決策を入力する体験型展示館を140平方メートルの広大な場所に設置し、大型の双方向ディスプレイ上にインプットされた内容が映し出される仕組みになっています。過去の官民連携プロジェクトのケーススタディも紹介され、見学者はマルチタッチスクリーン端末を用いコンテンツにアクセスしたり、ダウンロードを行っていました。

サミットと同時開催された「シンガポール国際水週間(SIWW)」では、東レによる水処理R & Dセンターの開設、シンガポール国立大学、北京大学、英オックスフォード大学共同による水問題や環境負荷削減の研究を行う機関「SPORE」立ち上げ、米パイプラインメーカー、インシチュフォーム(Insituform)のアジア統括本



Future Readyパビリオン



参加者がマルチタッチスクリーンを通じ、ケース・スタディの情報にアクセスする

部設置の発表が行われました。

資源の乏しいシンガポールは革新的な都市ソリューションを開発することで、住みよい、持続可能な国づくりを行ってきました。この経験で培ったシステム開発のノウハウを活用し、今後は大規模なインフラプラットフォーム、特にアジアや都市化が進んだ熱帯地域を対象とした未来型ソリューションを企業が開発、実証、実用化できるような「大型実験施設」の構築を目指しています。地域初の環境型ビジネス団地「クリーンテックパーク(CleanTech Park)」はその一例であり、新しい環境配慮型のソリューション開発・実験の場として多くの事業機会を生み出すと期待されています。このような取り組みを行うことで、シンガポールは未来に対して前向きな姿勢を持ち続け、企業が人材、技術、戦略といったシンガポールの強みを活用しタイムリーかつコスト効率の高いソリューションの開発を行えるよう支援していきます。

## Singapore Business Topics

### EDB、製薬大手 GSK と共同で 持続可能な製造へ出資



「GSK-EDB 基金」プロジェクトの第一期表彰式 写真提供：GlaxoSmithKline

EDB は、製薬大手グラクソ・スミスクライン(GSK) と共同で、シンガポールを拠点に環境に優しい、持続可能な製造技術を開発する第一弾プロジェクト 8 つを選定し、資金支援を決定しました。

支援をうけるプロジェクトは、A\*STAR 傘下の化学工学研究所(ICES)、南洋工科大学(NTU)、シンガポール国立大学(NUS) が認定、製造過程で資源効率を最大化すると同時に発生する廃棄物を最小限に抑える研究を、化学、物理そして生物変換の観点から行います。

EDB は GSK との間に、環境に配慮した持続可能な製造および医療分野でシンガポールの人材能力を高めることを目的とした総額 29 億円(3,500 万 USD)の「GSK-EDB 基金」を立ち上

げており、その中から 20 億円(2,400 万 USD) が、環境に優しい持続可能な製造技術を開発するプロジェクトに拠出されます。今回認定された第一弾プロジェクトには 2 億 9,000 万(350 万 USD) 規模の支援が行われます。

EDB のレオ・イップ長官は、環境に配慮した持続可能な製造能力を高める GSK との取り組みを高く評価し、「GSK と手を組むことで、シンガポールの研究力を強化し、医薬品や精製化学製品の製造過程をより持続可能にできる」と述べています。

### 「日立エコ・カンファレンス 2010」、 官民連携による生物多様性の保全を議論

日立製作所のアジア統括拠点である日立アジアは、9 月 3 日、環境セミナー「日立エコ・カンファレンス 2010」をシンガポールにて開催しました。日立グループの環境セミナーとしては最大級であり、昨年に続いて第 2 回目となる今年のイベントは、「官民連携による生物多様性の保存」を主題とし、国内外の政府・企業関係者、NGO および学術研究者がおよそ 300 人参加し活発な議論を行いました。

マー・ボータン(Mah Bow Tan) 国家開発担当大臣は、日立の環境への取り組みを評価し、「この環境シンポジウムは失われる生物多様性の問題に目を向け、保全のための対策を考え、議論する最適な場所。官、民、そして人が生物多様性の価値と保全の必要性を認識することが重要だ」と訴えました。

日立は環境ビジョンを策定し、環境保護や持続可能な社会作りを推進することで地球温暖化の防止や資源・生態系の保全に積極的に取り組んでいます。セミナー開催時には、ガスタービン、太陽光システム、モノレール、スマートグリッド(電力網)、IT、高度な水環境ソリューションなど持続可能な社会を目指す取り組みを紹介しました。



「日立エコ・カンファレンス 2010」 写真提供：Hitachi Asia